



# みどりの風

No.62 発行日 令和元年 5月20日

MIDORI NO KAZE

H.P <http://akaneen.com/>

## 「平成をふりかえる —あかね園との20年間—

あひるの会 理事長 岡崎 幸子

新元号発表の2か月前、千葉テレビから取材の依頼がありました。ニュース番組内で放送しているシリーズ「平成ちば回顧録～今上天皇の房総路」で平成18年12月にあかね園をご訪問された天皇皇后両陛下のエピソードをインタビューしたいとのこと。

この年はあかね園創立20周年の年でもあり、また自立支援法施行に伴い、「授産施設」から「障害福祉サービス事業所」へ事業移行した節目の時でもありましたので、両陛下のご訪問は、あかね園にとって大変意義深いものでした。

この取材をきっかけに、自身のあかね園との20年間を振り返ってみようと思い立ちました。

平成10年、息子の入園から、私のあかね園時代が始まります。「障害をもつ子供の親達が“知恵と汗と資金”を持ち寄って立ち上げた施設」というこの1点に、親の私が震えるように感動しました。

それも「昭和62年開園以来、“地域で働き・暮らす”支援を続け実績を上げている」というのです。入園以前にいくつかの親の会立ち上げに関わり、親の思いを結集してそれを形にする事の難しさ、大変さは身に染みていたからでした。

こうして保護者会役員として先輩たちの仲間入りをしました。当時の保護者会では創設時の借金返済や園の運営を助ける為、バザーをはじめとする活発な販売活動を展開。親達の手芸品や企業からの提供品等を地域のイベントに出店して収益を得ていました。皆が元気いっぱい楽しく活動を続け、あひるの会後援会（旧友の会）の大きなバックアップもあり、平成18年借金完済。平成13年には法人理事長に就任しておりましたので、法人としても一区切りついたとほっとした思いがありました。

その後も動き始めた車は止まらないとばかり、「誰かに頼る前に、まず自分達で出来ることをする」というあかね園の親達の精神を発揮して、意

気盛んな活動が続きました。創設以来あかね園は“本人にとって今必要なこと、今後必要になること”を制度に先駆けて展開していました。制度の隙間を埋めるような、園独自の取り組みも数多く、加えて将来の施設の建て替えにも、まだまだ法人とあかね園を応援するための資金が必要だったからです。

近年は「保護者会」と「就労者親の会」が力を合わせ、バザーを始めとする「ボランティア活動」と子供の地域生活を支える家庭の役割を学ぶ「研修会」を活動の2本柱として、今日に至っています。

ところで、平成28年法人創立30周年を迎えた頃から社会や福祉の変化、そして親と子の高齢化に呼応するかのようになり、保護者の意識に変化が表れ始めました。“子供のためにあかね園の活動に軸足を置いて”は通用しない新しい世代の出現もあります。

新しい親の活動像が求められているようです。活動内容の整理と見直しを図り、出来る時に出来る人が参加して“園や仲間とつながる”喜びを実感できる、そうした活動を模索しているところです。

私の20年は息子の20年でもあります。園で8年教育を受け、就労して13年、グループホーム16年の39歳になりました。息子のおかげで母の私も仲間を得て、ライフワークともいえるあかね園に出会い「この子で良かった」と言える現在の心境です。

さて、新時代の到来です。松尾園長になって手がけた新事業、「グループホーム大久保（短期入所事業）」、「就労定着支援事業」も軌道に乗り始めました。更なるあかね園らしい事業展開を続けるために、改めて「後援会」と保護者の皆様に、今後とも一層のご理解とご協力をお願いする次第です。皆様のお力添えなくしては今日のあひるの会あかね園はありえませんでした。

# あかね園の「暮らしの支援」について

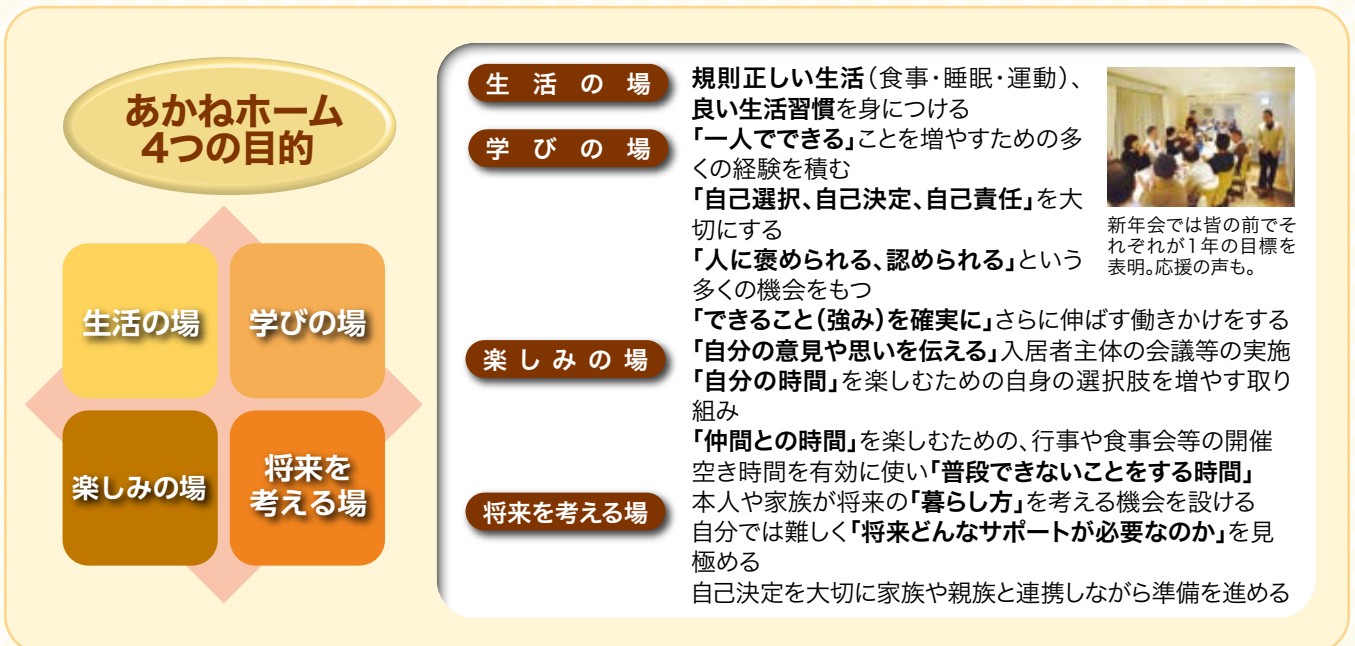
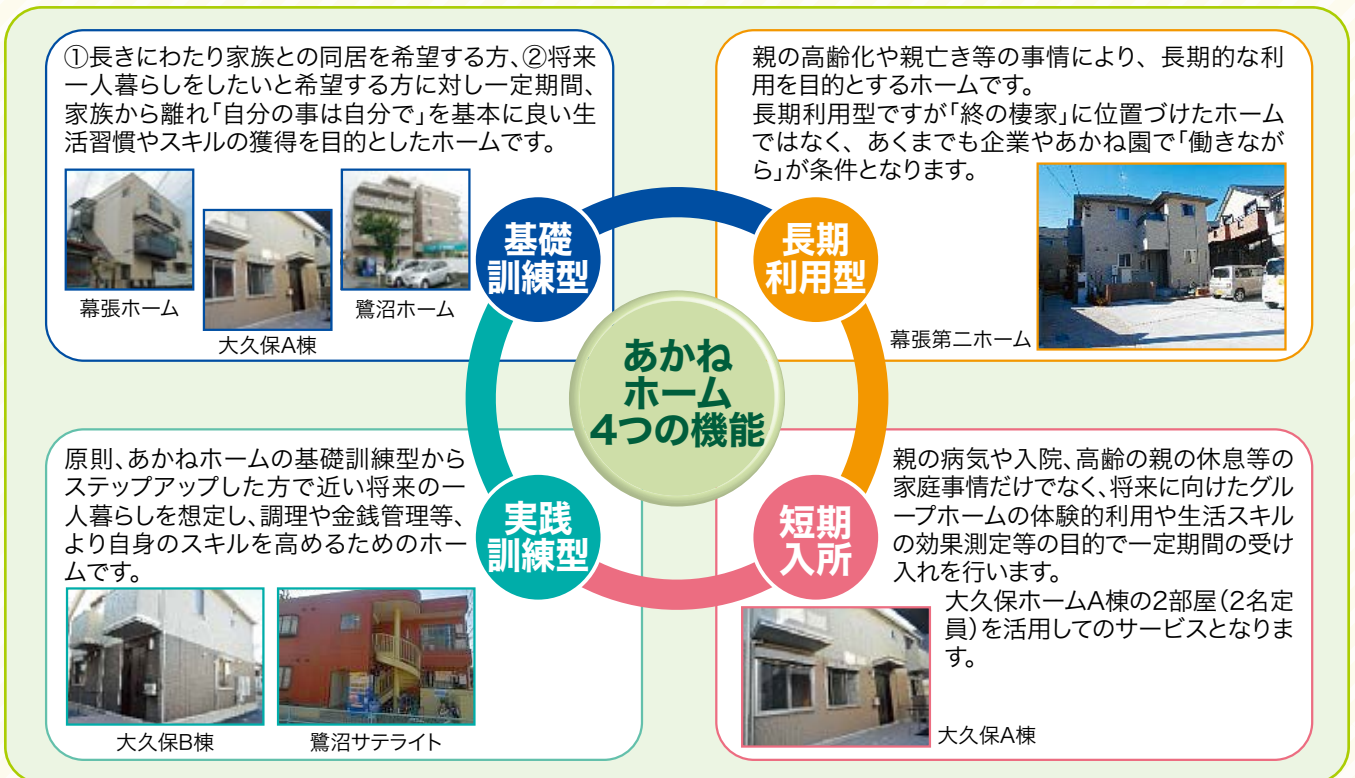
現在、千葉県内には社会福祉法人や株式会社等、約300の事業所が運営する障害者グループホームが約1,000か所あり、5,000名を超える方達がサービスを利用しながら地域で暮らしています。

これだけ多くのグループホームが様々な理念や目的の下に運営されているのですから、一言に「グループホーム」といっても当然、その中身（サービス）は大きく異なります。

あかね園のグループホームでは「4つの機能」と「4つの目的」をレベルに応じた組み合わせをすることにより、個々の利用者の目標や課題に合わせた“暮らしの支援”を提供しております。

今号ではこの4月に新たに完成したグループホーム（2棟）の紹介を通して、これからの時代の中でのあかねホームの役割について考えてみたいと思います。

施設長 松尾 公平



# 新しいホームが完成しました

2019年4月、習志野市の大久保（あかね園から車で約20分）に新しいグループホームが開所しました。法人ではかねてから利用希望の増に伴う定員の拡充と幕張西ホームの老朽化に伴う移転先の確保、近年要望の多い、体験の希望や家庭の事情による緊急的な受け入れ等、多様なニーズに応えるためのショートステイ（短期入所事業）の整備を準備してきました。ここに新ホームの紹介と併せて、コンセプトの異なるそれぞれのホームの取り組みについてお伝えします。



## 基礎 訓練型

### あかねホーム大久保A棟

定員：グループホーム4名・短期入所2名



間取りは2階建の7LDK。  
グループホームの入居者用4部屋は各室10㎡超+大きな収納スペースがあり非常にゆったりとした空間です。  
ショートステイの方には専用のエリアでお風呂やトイレ、洗面所があり、落ち着いた環境が整っています。

## 「共同で生活する」ということ

社会生活の中では「周囲に合わせてもらう」ことよりもルールや組織に「自分が合わせる」姿勢が多く求められます。

「お先にどうぞ!」・「手伝うよ」・「飲み物ある?」・「一緒に行こう」こんな入居者同士のやりとりが、あかねホームの日常にはあります。

共同生活というと、マイナスのイメージが強いかもしれませんが、仲間たちと暮らす中では「折り合いをつけ」、時には「がまん」もしながら、自然と気づかひの出来る人へと成長していきます。



限りある洗面台やお風呂は「譲り合い」日常生活の中にはたくさんの学びが。



ひとり遅く仕事から帰ってきても、みんなから「おかえり」

## 実践 訓練型

### あかねホーム大久保B棟

定員：グループホーム6名



間取りは2階建の7LDK。  
こちらの入居者は将来の一人暮らしを視野に入れている方達ですのでイメージはシェアルームの社員寮。より自立した生活力を身につけていくために各居室には電子レンジや冷蔵庫があり、共有スペースでは調理道具等もシェアし、仲間と協力しながら暮らしています。

## “自分の事は自分で”の楽しさとたくましさ



部屋には職場の勤務表や会社の規則が

社会人ともなれば、自分のスケジュールは自分で管理することが求められます。

就職先によっては日々シフトが変わり、出勤時間等の変更も頻繁にあることから、生活リズムや体調を整えながら生活しなければなりません。

自分一人で生活していくためにはスキルだけでなく、意識も問われます。

自炊の記録▶



今日の朝食は自分で用意して自分の部屋で

月のうち何食かは自炊の日を設け、簡単な食事を自分で用意します。「調理」だけでなく、栄養バランスも意識できるように、自炊日の食事メニューを記録し、職員からアドバイスをもらいます。



出動前のコーヒータイトム、さあ出動です。

## 後援会2018年度決算報告と2019年度事業計画

2018年度後援会の運営は、皆様のご支援、ご協力によりその役割を果たすことができました。お礼申し上げますと共に、ここにご報告致します。

11月9日（金）には、第28回コンサート「あかねのつどいへようこそ」を開催致しました。今回は、園生と保護者を中心としたアットホームなものになりました。

研修会は、2月9日（土）に予定しておりましたが、雪のため中止になりました。お弁当、お茶、

会場費をキャンセルできなかつたため、計上してありますことをご了承ください。今回の内容を踏まえ7月13日（土）に2019年度の研修会を予定しております。

2018年度法人へは、750万円を寄付致しました。4月開所のグループホームの備品代や将来のあかね園建て替え積立金等、法人運営に役立てられます。決算につきましては、4月9日山崎順子、大城廣美両氏の監査を受け、適正と認められました。

2019年度も、引き続き皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

収入の部		支出の部	
			単位：円
前年度繰越金	4,131,439	事務費	566,594
会員会費	5,873,000	研修費	82,918
(個人387名、企業29件)		コンサート	402,300
コンサート	684,000	法人への寄付	7,500,000
寄付金等	40,650	次年度繰越金	2,177,329
預金金利	52		
合計	10,729,141	合計	10,729,141

### 2019年度事業計画

5～6月	会員増強月間
5月20日	みどりの風62号発行
7月13日	研修会
12月	みどりの風63号発行

## 園日誌

佐々木 和恵



産休、育休から復帰し、約1年が経ちました。お休みを頂いていたこの1年で変わった事が多くあり、はじめはその変化に驚き、仕事と育児の両立ができるか不安に感じていました。しかし、現場に戻ると利用者みなさんから『戻ってくるのを待っていました。』と声をかけて頂いた事がとても嬉しく、職員、保護者の皆様の理解があり、育児を優先しながら働ける環境にとっても感謝しています。

職場復帰してからは、自立訓練事業で支援を行ってきました。『昨日までできなかった事が出来るようになった。』『初めて、〇〇やりました。』『次は〇〇ができるようになりたいです。』など、若々しく、エネルギッシュな利用者さんの成長を

目の前で感じる事ができ、自分の子の成長のように日々嬉しく感じています。自立訓練の利用者の皆さんには、今まで経験のなかった事をたくさん挑戦し、たくさん失敗して学び、成長して欲しいと思います。

また、今までは支援者としての目線で支援を行ってきましたが、母になり、保護者の気持ちがわかるようになり、少し視野が広がったように感じます。今後は、保護者の皆様の心に寄り添いながら、利用者みなさんが自立できるよう、時短という限られた時間ですが、園にいる時間は利用者さんとたくさん接し、今まで以上により良い支援ができるよう、支援者としても母としても勉強していきたいと思っています。

## 後援会研修会

7月13日(土) 10:30～15:15

[テーマ]

変わる社会への  
「情報と対策」とは

～ 令和元年。

時代が変わる! 地域が変わる! ～



後援会へのご入会を  
お願いいたします。

一般会員(年間一口 3,000円) 法人会員(年間一口 10,000円)  
郵便振替 00260-1-88365 口座名: あひるの会後援会  
銀行振込 千葉興業銀行 津田沼支店 普-4771251  
口座名: 社会福祉法人あひるの会 後援会 代表 国松実枝子  
入会申込み、問合せは事務局まで  
047-452-2715 Fax 047-452-2693

### 編集後記

今回はホームについての特集を組みました。利用者達が折り合いをつけながら生活していく様子を耳にして親は子離れをしなくてはと感じるこの頃です。(K)

編集人 あひるの会 後援会代表 国松実枝子  
発行所 社会福祉法人あひるの会 後援会  
〒275-0024 習志野市茜浜3丁目4番5号